

最近のホンダ車のエッセンスを盛り込み、MDX派生車の外観フォルムを予想した。ラグレイト同様、北米から輸入販売される予定だ。

Illust. K.Yamanouchi

2002
1~4
月



北 米で生産・販売されているビッグSUV「MDX」の派生モデルが開発されていることを突き止めた。本家MDXの日本導入は見送られたが、この派生モデルには右ハンドル仕様も存在し、ラグレイト同様、輸入販売されるにちがいない。

日本では大きく異なるMDXのボディサイズを切り詰めるため、リアオーバーハングが縮小され、3列目シートは設定されないかも。ただし、搭載エンジンや駆動系はMDXと同じで、高い走破性と確かな信頼性に変わりはなく。そのおかげでコストは抑えられ、発売時にはライバル車を脅かすほどの低価格が打ち出されるだろう。

085

開発コード「HJ」かかげ
日本導入もくろむビッグSUV

MDX派生車



カペラ

087

Photo. EDITORIAL NETWORK

アルミホイールを履いた次期カペラのメカプロ。サイドシルがドアパネルよりも横方向に突出しているのが確認できる。フロントウインドウの接着面もイビツだ。

幅広の新シャシーを裏付ける証拠として、メカプロのサイドシルとドアパネルに整齊性がとれていない。フロントのホイールハウスに付け足されたオーバーフェンダーからも、トレッドが広がっていることがわかる。なお、次期カペラは時差デビューを図る予定で、02年2月にワゴンが先行発売され、セダンは同年4月から生産が立ち上がる。もちろん、ヨーロッパやオーストラリアへも輸出。

フ

オード・モンデオとのプラットフォーム共有化を必須条件に、開発が進められている次期カペラ。現在、テストコースでは新シャシーとパワーユニットに現行ボディをタミイ代わりに被せた先行試作車（メカプロ）が走り回っている。99年の東京モーターショーに参考出品された直噴ガソリンエンジンのテストが行われているのだろうか。

21世紀ニユル

SC

NEW

スクーパ班が捕らえた次期マーチの先行試作車。新世代「B」プラットフォームの上にアルメーラのボディが暫定的に載せられた手作りテストカーだ。



086

いまま走り回ってる
アルメーラ改造試作車

マーチ

リアバンパーなしの別のテストカー。やはりリアドアが切り詰められていて、明らかに不自然だ。給油口は現行アルメーラと逆側についている。



日

欧で大ヒットとなり、ラ
イバル車に質の高さを
見せつけた現行マーチ。
ヴィッツが登場するまではコンパクトカー市場を総ナメしていたが、さすがに古さが目立ち始め、勢いが落ちている。02年1月にはFMCが行われるが、すでに先行試作車を用いたテストが実施されている。写真のとおり、ベースに起用されているのはアルメーラBだが、リアドアが明らかに短くなっており、ホイールベースも短縮されている。
その理由はプラットフォームにある。アルメーラはサニーと同じMSプラットフォームを採用しているが、新型マーチはひとクラス下のコンパ

クトカー専用Bプラットフォームを起用。スクーパ班が捕らえたテストカーはBプラットフォームの上にアルメーラを改造した暫定ボディが架装されていたのだ。約1年後の発表に向け、外観デザインも試行錯誤が繰り返されているが、まもなく正式デザインが決定するはずだ。

089



ヴィッツ MC

年末の改良で好調さを維持するヴィッツは、登場から丸3年が経過する02年1月に本格的なMCを実施し、フロントマスクやリアコンビランプを一新。また、内装でもシート表皮や各グレードの装備設定が見直され、コンパクトカーの王座を守り通す。上で紹介したように、強敵マーチが同時期に一新されるため、それを迎え撃つかたちとなる。

088



エルグランド

巨大なボディサイズが予想以上に人気を呼んだエルグランドは02年4月にFMCの時期を迎える。詳しいことはまだ判明していないが、好評のアメリカン・テイストが踏襲される可能性もある。また、8月に新搭載されたVQ35DE型3.5 V6ユニットはそのまま流用され、ZD30DDTiにも磨きがかかるだろう。オーテック製特装モデルも継続設定。



これが次期カベラのメカプロだ。付け足されたオーバーフェンダーや盛り上がったボンネットフードが怪しさを物語っている。その後の調査で搭載されていたエンジンは2